

話題64 ティータイム(3)「献血で知った年齢」

少なくとも年に1度は献血をしてきた。職場に献血車が巡ってくることもあって、意識することなく行っていた。今年も、机の引き出しから献血のカードを取り出して献血車に向かった。受付での事務官の一言にとまどった。「これで、最後の献血ですね。献血は70歳までですので・・・」とのこと。

「寿命」「運命」。これまでは、これらの言葉の意味するところは未来に、将来に訪れるものと考えていた。しかし、最近、それに疑問符がついた。「寿命」も「運命」も先にあるのではなく、後ろからついてくるもののような気がする。多くの方々との出会い。悲喜こもごもの出来事。この足跡が、運命の糸を織りなすのではないか。

老健施設の勤務も3年目。多くの長寿の方々の人生の物語がある。100歳の長寿に恵まれた方が約1割。共通点を探ってみた。戦前・戦後の沖縄の貧困の時代に、粗食に耐えた方々である。細く、強弱のない均一の糸はかくも強い。反省。カロリー過剰の太い、現代の糸はもろい。

追い打ちをかけるように、地元の役所からの封書が届いた。封を切ると、「高齢者に対する肺炎球菌ワクチン接種のすすめ」である。安価で接種可能とある。観念しました。「運命」。マザー・テレサの深い味わいのある言葉を噛みしめて。

『思考には、気をつけなさい、それは、いつか言葉になるから。
言葉には、気をつけなさい、それは、いつか行動になるから。
行動には、気をつけなさい、それは、いつか習慣になるから。
習慣には、気をつけなさい、それは、いつか性格になるから。
性格には、気をつけなさい、それは、いつか運命になるから』